うひはたぶみ（初機踏）

H.A.M.A.木綿庵だより
第７８号
2024(令和6)年7月26日
（編集発行 梅田正之 090-5042-7775）

奇跡の綿種、受け継いで80年 ― 韓国から日本へ ―

今から80年前に､韓国から日本にわたってきた綿の種が、現在も大切に受け継がれ､栽培されています。栽培を続けておられるのは元・天理夜間中学校教員の福島俊弘氏です。福島氏は小学校でも教員をされていたことから、現在でも天理市内外の小学校に赴かれ、綿の特別授業を担当されています。

このたびご縁をいただいて、福島氏からその奇跡の綿種のルーツにかかわる一文をご紹介いただきました。貴重な歴史が記された記録として、李氏のご親族の承諾を得て以下に掲載させていただきます。

私がぬったチマ・チョゴリ　　李福順(イ ポクスン)さん。韓国全羅南道出身 1990年記

私は、朝せんで生まれました。私の家は、山の中にあって、百しょうをしていました。

私の家は、米や野さいをつくり、牛や豚をかっていました。私は、6才のとき、はじめておかあさんに教えてもらって、わたから糸をつむぎました。「ムルレ」という糸をつむぐ車をまわしてつむぎました。はじめは、とてもむつかしかったです。太い糸や細い糸が出てくるので、おかあさんがおこりました。右手で車をまわして、左手で糸をとりました。10才くらいで、じょうずになりました。

7,8才くらいから、はりをもって、ぬいもののけいこをしました。十才のとき、チマ(スカート)をぬいました。きれも作りました。13才のとき、おかあさんがいっぷくをするとき、私がけいこしました。きかいできれを作るのは、むつかしかったです。おかあさんといっしょに、ねないでしたこともありました。16才のときには、きれを作ったり、チョゴリをぬったりするのも、自分でみんなしました。二十才までどこにも行かないで、こういうしごとをずっとしました。私は、家の人のチマ・チョゴリやバジ・チョゴリ、うでカバーや、たびもぬいました。たびはむずかしかったです。

私は、けっこんして、1944年に日本に来ました。大阪から天理に来て、1945年の春ころ、近くの朝せんの人が､「アジメ(おばさん)、ちょっと､チマ･チョゴリぬって。」と、いってきたので、ぬってあげました。そのころは、きれがないので、日本のはおりやきものをといて、ぬいました。ぬってあげるととてもよろこんでくれました。それから、ほかの人のもぬってほしいといってきたので、ぬってあげました。

こうやって、私は、小さい時からぬいものをしましたので、だんだんぬいものがすきになりました。今でも、むかし、私がぬったチマ・チョゴリを思い出すととてもなつかしいです。

李さんの綿の木（福島氏提供）

2009年5月15日付朝日新聞の「声」欄に、福島俊弘氏の文章が掲載されています。題は「夜間中学の畑、ハルモニの綿」。当時、夜間中学校の生徒として在学していた李さんの綿に触れた一文です。李さんのご実家は綿作農家でもあり、李さんが渡日する際に実家の綿種を持って来られ、それを大阪で、そして疎開先の天理の家の庭で栽培して受け継ぎ、その種を、2008年より天理夜間中学校でも栽培することになり、その種を現在も福島氏が受け継がれているそうです。李さんは2010年逝去、享年90才。上記の文章は、夜間中学校の文集に掲載されたものです。

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和6年6月26日～令和6年7月25日)
大阪府１、奈良県１
【H.A.M.A.木綿庵】(令和6年6月26日～令和6年7月25日)
メールを含む各種相談件数１、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数７組１２名

《綿の栽培記録 2024》－ 令和6年度版　その4 －

10号畑では7月9日に和綿、洋綿ともに花が咲いているのを確認。すでにいずれにも赤い花があったことから、記録上は2024年の初開花は7月8日とさせていただきます。和綿の摘芯は、7月2日に70cmを目安に行いました。すでに100cm近くまで伸びている株もありました。洋綿については摘芯は行いません。また、7月13日～15日に、2回目の追肥を行いました。10号畑の②～⑤の畝には有機複合肥料の「しき島6号」(多木化学株式会社、チッソ6%/リン酸8.5%/カリ6%)。主原料は含窒素過りん酸（副産植物質肥料、蚕蛹かす粉末類、植物油かす類)、動物かす粉末類、骨粉質類、植物油かす類、硫酸加里 等。各株元から約20cmのところに棒肥、8-10g。ただし、10号畑の①には、有機肥料の「魚粉末」を同様の棒肥で各約10g。

7号畑、12号畑、9号畑、10号畑にも､少し早すぎますが同様に「しき島6号」を棒肥で追肥しました。なお、抑制栽培の1号畑では、7月25日時点で和綿、洋綿ともに順調に生長している株で背丈は70～80cm。

《豊井紡績所の取水口跡調査》　令和6年6月15日(土)

巻頭の福島俊弘氏にご案内いただき、明治16年(1883)に操業を開始した豊井紡績所の取水口跡を調査しました。氏はすでに2010年10月26日に、当時86才(大正12年生)の地元の古老から取水口付近にあった水車について聞き取り調査を実施されており、その様子をビデオテープに保存されていました。今回の調査はそのときの聞き取りをもとに実施しました｡布留川からの取水口は天理市滝本町下滝本にあったようです。

写真は左から10号畑の和綿青木の花(7/23撮影)、和綿赤木の花、洋綿アプランドの花、10号畑の様子(7/25撮影)

写真は豊井紡績所の取水口跡地付近､滝本町下滝本。左から目印のお地蔵様、布留川の様子2枚、川沿いの道(国道25号)

【研修等の記録】

・令和6年07月11日　天理大学附属天理参考館を訪問。全国コットンサミット天理大会における現地見学会の候補地の一つして、協力依頼書提出。

・令和6年07月13日　天理教本愛大教会(名古屋市）にて、綿の歴史と木綿のような心をテーマに講演。

・令和6年07月14日　天理駅前コフフン広場にて「てんだいフェスタ」に出店。野菜を販売。

・令和6年07月20日　KACOTTON(兵庫県加古川市)の鷲尾吉正氏を訪ね、かこっとんの理念と全国コットンサミット2017加古川大会についてのお話をお伺いし、綿畑をご案内いただく。